

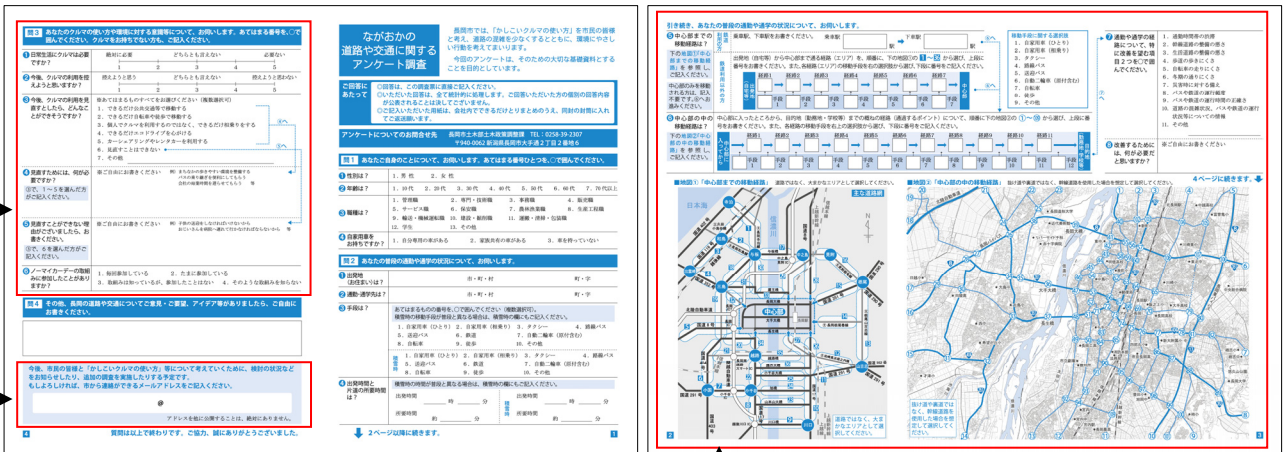
1. 通勤・通学行動調査

- 長岡市都心地区内、及び、周辺地区と都心地区間との幹線交通に着目し、交通の実態把握と道路ネットワークや公共交通サービスの問題点等を把握するため、都心部に通勤・通学している方を対象としたアンケート調査を実施した。
- 調査概要



図 調査対象地域

調査対象	都心部（千秋が原・古正寺地区、シビックコア地区等含む）に通勤・通学している市民	
調査規模	目標サンプル数	4,200票程度 ※抽出率10%
	配布票数	8,950票
調査期間	配布期間	平成24年12月13日～14日
	回収期間	平成24年12月26日～平成25年1月23日
調査票回収状況	4,513票(回収率50.4%)	



ソフト施策に結びつけることを意図した設問

行動や移動経路、手段等を把握するための設問

図 調査票(左:おもて 右:うら)

主な調査結果

<長岡市中心部への主な通勤・通学特性>

- 通勤・通学手段として**自家用車利用が多い**。
- 通勤先への**到着時間が一定時間に集中**する。
- 自家用車利用者の通勤経路としては中心部東西方向を連絡する**橋梁部に集中**する。
- そのため、渋滞解消に向けた**橋梁整備に対する要望が多い**。
- 積雪期**においても通勤・通学手段の変化は少なく、依然として**自家用車利用が多い**。
- 積雪期の通勤時間は無雪時より時間を要する。このため、自宅を早く出るなどし、通勤先への到着時間は無雪期と変わらない（よって、**渋滞のピークは変わらない**）。
- このような現状もあり、通勤・通学経路の**改善要望としては、除雪や融雪に関する事項が多くなっている**。

<クルマの使い方に対する意識>

- 日常生活におけるクルマの必要性は、**郊外部で90%以上と非常に高く、中心部では70%未満に低下**する。
- クルマが生活必需品であるため、クルマの利用を控えようとする回答者は少ないものの、**居住地によって意識の格差**が生じている。
- ノーマイカーデーの参加経験についても居住地間でバラつきがあるが、**ノーマイカーデーに積極的に取り組んでいる事業所では、毎回参加率が高い**（毎回参加率50%以上の事業所も存在）。

- 現在、長岡市東西方向を連絡する道路整備として、長岡東西道路（フェニックス大橋）の整備が進められているものの、通勤時間帯の渋滞改善に向けては、**市中心部に集中する自動車需要の削減も必要**である。
- 橋梁部を利用経路とする目的地は、通勤・通学先である川東地域に集中しており、自動車需要削減に向けては、**着地側での交通政策展開が効果的と考えられる**。